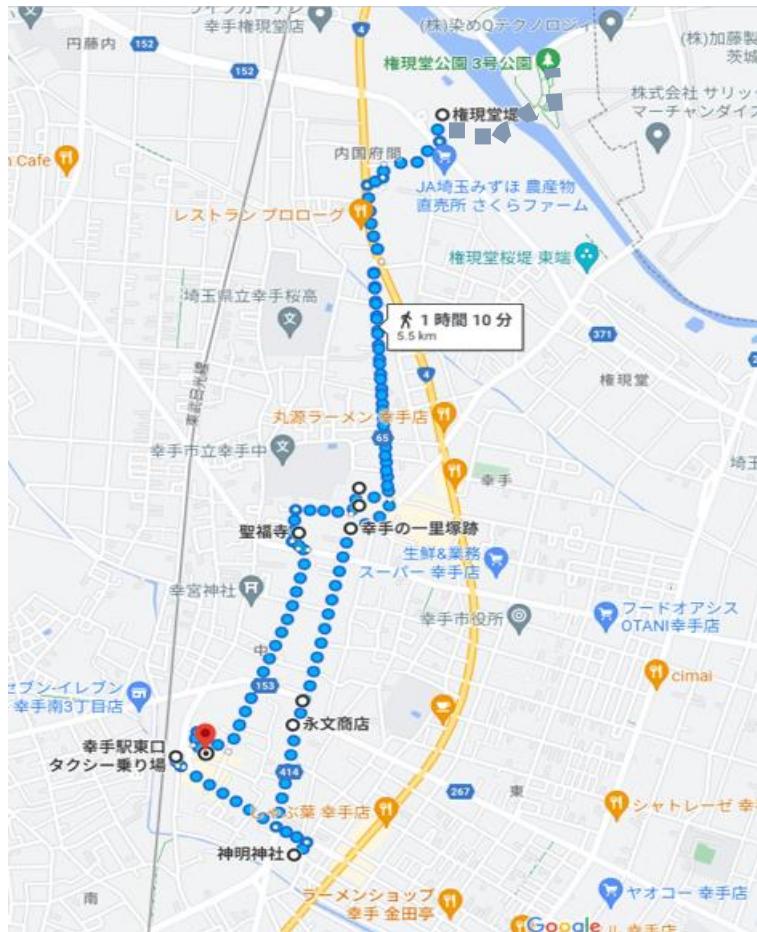


2024年10月4日(金)、前日からの変わりやすい天候が心配で、一時小雨にも遭いましたが、ますますのお天気の中、ハイキングを10名の参加で行つきました。

3月の杉戸宿に続き、今回は埼玉県に入って5番目の宿場「幸手宿」と権現堂堤に広がる一面満開の花、曼珠沙華を楽しんできました。

コースは下図の青点線のルートでした。



10:10 幸手駅にて集合



10:15 おしゃれな幸手駅の外観(権現堂堤の桜にちなみ外壁には桜の花びらが散りばめられている。)



歩道の手すりに金メダリストの「高橋尚子」、「井上康生」の手形とサインがありました。

「手形」はハッピー(幸せ)ハンド(手)で「幸手」との事。

10:20 一色稻荷神社(陣屋稻荷)、幸手城跡

幸手城の跡は何もなく、「一色稻荷神社」は、別名・陣屋稻荷と呼ばれ、かつては幸手城の一角に祀られていた氏神であったとのこと。



駅前通りを次の神明神社へ向かう





10:15 明治天皇行在所跡碑  
明治 14 年(1881 年)と明治 29 年(1896 年)の 2 回、明治天皇が行幸した際、幸手に滞在したことを伝える碑



10:25 神明神社  
この辺りが、幸手宿の南側  
(江戸方面)入口にあたる場所。  
神明神社は、江戸中期に建立された神社。



10:30 古い造りの旧家  
幸手宿は約 1km、最盛期の家数は 962 軒で人数は 3,937 人とのこと。  
本陣 1 軒、脇本陣 1 軒、旅籠も多く、  
日光街道では千住宿、越ヶ谷宿に  
次ぐ 3 番めの規模。街道沿いに  
旧家が並ぶ。

10:35 永文商店



江戸時代には、松尾芭蕉と弟子の河合曾良(そら)が、おくの細道紀行で幸手宿に立ち寄り。「永文商店」の建物側面にはその道中の様子が線画で描かれていた。

下の赤みがかったトタン部分に、芭蕉の「幸手を行かば 栗橋の関」と、曾良の「松杉を はさみ揃ゆる 寺の門」句が描かれている(とのこと)。

街道沿いの商家は、間口が狭く奥行が長い。

永文商店も同様で、建屋の横にレールがあり、手前の店舗と奥の倉庫間の商品運搬にトロッコを走らせたようである。



10:40 ポケットパーク(問屋場跡)で小休止  
小雨が降ってきたため、休憩と傘の準備を行なう

ここは宿場町時代の「問屋場」跡地で、ポケットパークと称する小さな公園になっている。



10:50  
日光街道を一里塚跡方向へ



日本橋から 12 里 (約 48 km) 示す一里塚



11:00 雨が降ったりやんだりの中、権現堂公園へ向かう



11:20 やっと権現堂公園に到着



権現堂堤には真っ赤な曼珠沙華が咲いていました。  
今年は猛暑のせいで、咲くのが遅かったようです。

11:30 花を見るのもそこそこに、権現堂第3公園にある四阿へ直行



約1時間の昼食休憩



12:25 展望台より  
権現堂川(行幸湖)  
を見る



12:35 権現堂土手の曼珠沙華



真っ赤な曼珠沙華の中にはピンクの花もありました。

12:40 集合写真(背景を変更・合成しました)



### 13:20 正福寺(しょうふくじ)

正福寺には、徳川4代将軍・家綱が、将軍に就任する以前の慶安2年(1649年)に宿泊したという記録が残っている。



境内には大きな「日光道中道標」がある。

「義賑窮餓之碑(ぎしんきゅうがのひ)」

天明3年(1783年)、浅間山の大噴火により大飢饉が発生した際、幸手宿の豪商21人が金銭・穀物を出し合い、幸手の民を助けたとのこと。

この碑はこれを讃え建てられた碑で、埼玉県の指定文化財



### 13:40 聖福寺(しょうふくじ)

創建は約600年前で、室町時代の応永年間(1394~1428年)。江戸時代の将軍の日光社参の折りや、天皇の代理として東照宮例大祭に参拝した例幣使(れいへいし)の休憩所に用いられた。

唐破風の造りの山門「勅使門(ちょくしもん)」は、当時、将軍と例幣使以外は通行できなかったとのこと。

#### 勅使門

唐破風がついた四脚門で、扉には菊の紋様が刻まれている。



### 14:00 幸宮神社



幸手駅への帰り道、幸手の総鎮守としてまつられている幸宮神社(さちのみや)へ立ち寄った。



文化財を大切にしましよう

幸手市教育委員会



市指定文化財（有形文化財  
彫刻）

所在 幸手市中四一十一一三十  
指定 平成三年四月一日

幸宮神社は、創建から四百年以上の歴史を持つ古社で、幸手の総鎮守として信仰されています。現在の本殿は、棟札によると文久三年（一八六三）に再建されたもので、総檼の流れ造りです。正面扉の両脇には昇り龍・下り龍が刻まれ、本殿の周りには獅子・鳳凰・天邪鬼・鷹・松なども彫刻されています。獅子は左右一対になつており、阿吽の形をとります。胴羽目に彫刻された、劉備・玄徳と諸葛孔明の三顧の礼・太公望と周の文王・源平の一ノ谷の合戦、さらに腰羽目の、田起こしから収穫まで、稻作の様子を順を追つて描いた四季農耕の彫刻も見事です。

14:25 幸手駅前に到着



皆さんお疲れのご様子、電車の時間まで小休止。

10月の初旬、遠くの台風18号の影響でお天気が心配でしたが、大きな崩れがなく無事にハイキングを終了することができました。皆さまお疲れ様でした。またご協力ありがとうございました。

日光街道幸手宿の街並み約1kmの間に天皇行在所跡、一里塚跡などの碑がありましたが、宿場を直接に思い起こすような建造物はありませんでした。しかしながら、旧街道の周辺の所々に、古くからの家屋が点在しており、宿場町の面影は十分に残っていました。

権現堂堤では、猛暑の影響が、花見の我々にとって幸いし、曼珠沙華が満開で、想像以上に見事な景色を見ることが出来ました。皆さまも堪能して頂けたかと思います。

コース距離では6kmくらいでしたが、万歩計では約1.6万歩でしたので、実質10km以上の歩行距離であったかと思います。何はともあれ、皆さん無事に完了できてよかったです。参加の皆様、大変お疲れさまでした。

次回は、11月1日（金）「高崎・観音山のハイキング」が美術工芸科の担当で開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

記:加藤 治朗